

安全と健康の両輪から議論

OCHIS 両輪会

ヘルスケアネット  
ワーク(OCHI  
S)が主催する第25  
回安全と健康を推進  
する協議会「両輪会」  
(テーマ:「運輸業  
界の高齢化への対応  
と働き方」)が10日、  
開催された。大阪府  
以外からも茨城県や  
奈良県、山口県など

からの参加があり、  
積極的に意見交換を  
行った。  
OCHISの作  
本貞子副理事長は、  
テーマ設定の経緯に  
ついて「高齢ドライ  
バーによる悲惨な事  
故が相次いでおり、  
高齢者対策は待った  
なしの状態。高齢者

の問題を個人・運輸  
事業者の両面から、  
さらには安全と健康  
の両輪から皆様と議  
論したい」と説明。  
続いてOCHIS  
の黒田悦子保健師か  
らは、運輸ヘルスケ  
アナビシステムを活  
用した高齢ドライ  
バーの安全と健康対  
策についての情報提  
供が行われた。黒田  
氏は「定期健康診断  
では、身体的能力を

把握できるものがな  
い。そのため、今後  
高齢の社員を再雇用  
などする場合はそれ  
以外の確認方法が必  
要」と解説。同じく  
保健師の橋詰凜帆氏  
が行った報告では、  
運輸ヘルスケアナビ  
システムの分析によ  
り聴力有所見者が全  
体の2割おり、生活  
習慣病が加齢性難聴  
の原因となっている  
ことが説明された。



作本副理事長

事例発表では、合  
通総務部の梅田貴之  
部長が「高齢化に対  
応した我が社の基準  
と健康管理のスター  
トをテーマに講演。  
同社では健康維持増  
進活動の一環として  
特定保健指導を行  
い、新たな産業医を  
迎える月に3回、健康  
維持増進に関する協  
議を実施している。

講演後は、5グ  
ループに分かれグ  
ループディスカッ  
ションが行われた。  
事業者からは「高齢  
者の再雇用で社員の  
モチベーションが下  
がらないよう、工夫  
を行っている」や、  
「グループ会社内で  
配置転換を行い、長

く働ける環境づくり  
をしている」などと  
いった意見が寄せら  
れた。  
議論前に、梅田運  
輸倉庫安全管理部の  
岸本恵知課長が、今  
年12月から罰則が強  
化されるスマート  
フォンの使用し  
ての「ながら運転」  
について動画を交え  
ながら解説し、周知  
を呼びかけた。

（木村麻理奈）